



サイクス(SICS)は、産業情報支援センターの運営組織である、(株)西条産業情報支援センターの愛称です。

今月は、先月に引き続き、住民主体の地域密着ビジネスとして注目を集めるコミュニティビジネスについて紹介します。

地域の課題を住民主体で解決！ 注目を集める「コミュニティビジネス」

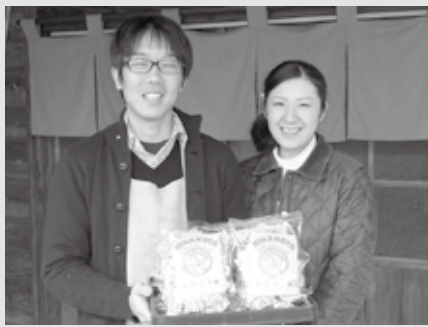
後編

「コミュニティビジネス(CB)」とは、住民が主体となり地域(コミュニティ)が抱える課題を解決し、その活動の利益を地域に還元していくこととする、地域密着ビジネスのことです。

今月は、市内でのCBの事業例を紹介し、将来的な可能性を探ります。

■田舎の良さを活かす

丹原町高松に昨年11月、若い夫婦が「ひなのや」という店舗兼製造所をオープンしました。古民家を改築した、田舎のおばあちゃんの家のような店内には、地元産米やおし



地域の魅力発信に取り組む玉井夫妻

やれなパッケージのポーション菓子などが並べられています。

会社勤めを経て、家の農機具店を継ぐために帰郷した玉井大蔵



「ひなのや」の店内

代表は、ふるさとの農家の人たちのふれあいの中で、地元には田舎の近所付き合いの良さがあり、おいしい農作物に恵まれているにも関わらず、その一方で農家数の減少や耕作放棄地の増加などによって、地域の元気がなくなっていくのを感じていました。

そこで「農家や地域を元気にできないか」と考えた末、地元のおいしいお米を多くの人に知ってもらうため、付加価値を高めた地元産米の販売をしたいと起業したのです。こうして、特別栽培米のほか、東予地方で昔から「嫁入り豆」としてなじみのあるポ

ン菓子を日常的に食べてもらえるよう、キャラメルナッツ味やはちみつミカン味などに加工し販売したところ、懐かしさと新しさを楽しめる商品が好評を得ています。

■広がるCBの輪

「ひなのや」の試みは、地域の人々が気軽に訪れて地元産品を使った商品開発の話をするなど、広がりを見せつつあります。また、同世代の中から、違う業態ながら地域を元気にしようとする仲間も現れてきており、一緒にイベントを開催するなど連携も進んでいます。

「西条には良い素材を作れる環境が整っています。いかに付加価値を高めて発信していくか。そして、それをビジネスとして継続していくことが重要です」と玉井代表は語ります。

自然や文化・人などの地域の既存資源を活用し、新しい価値観をプラスすることで、ビジネスとして成り立つと同時に地域全体に活力が生まれます。CBの広がりには、その可能性を秘めているのです。

会員企業の事業紹介 住民参加型 太陽光発電促進事業

サイクスの新規会員企業である(株)さいじょう太陽の郷では、住民参加型の「太陽光発電促進事業」を実施します。

これは、自然エネルギーの地域普及をめざして、市内の約100世帯を対象として行うものです。

「地球環境を守りたい。自然エネルギーの地産地消で、持続可能な社会をつくりたい」との想いからスタートした事業では、太陽光パネルの設置家庭において、発電状況を毎日確認することで節電意識が向上し、省エネルギー化の促進が図られ、ひいては地球温暖化防止へ貢献することが期待されます。

本事業で削減される二酸化炭素量は、年間約132トンのCO₂で、その削減効果は石油換算で18リットル缶約5300缶分にも上り、地球に優しい取り組みとして注目されています。

